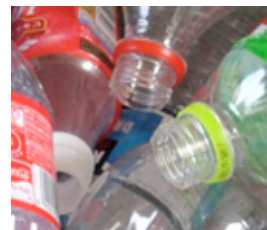




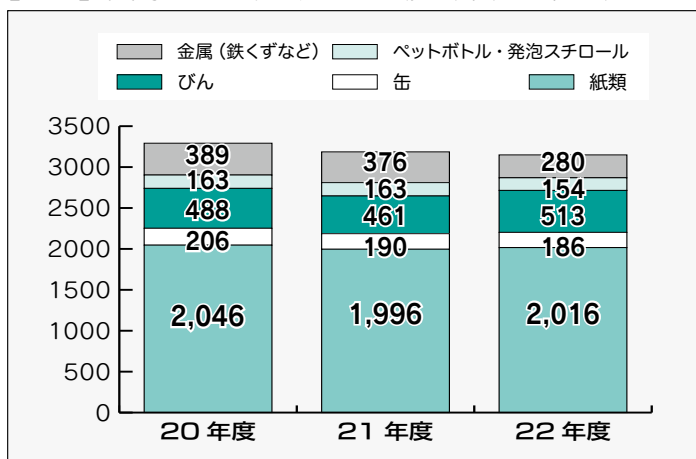
資源ごみの売却実績

平成 22 年度 年間資源ごみ売却量 3,149 トン
平成 22 年度 年間資源ごみ売却金額 5,753 万円

図 2 と表 1 は資源ごみの売却量と売却金額の推移を表しています。売却量は大きく変わりませんが、売却金額には違いが見られます。平成 21 年度と比べると、平成 22 年度は売却重量が 37 トン（約 1.2%）減少していますが、逆に売却金額は 1,619 万円（約 39.2%）増えています。売却金額については入札で決定していますので、市場取引価格で大きく変動します。



【図 2】資源ごみの売却量の推移（単位：トン）



【表 1】資源ごみの売却金額（単位：万円）

| | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 |
|----------------|-------|-------|-------|
| 紙類 | 3,872 | 1,776 | 2,766 |
| 缶 | 1,591 | 862 | 1,268 |
| びん | 104 | 110 | 84 |
| ペットボトル・発泡スチロール | 577 | 441 | 681 |
| 金属類（鉄くずなど） | 1,100 | 945 | 954 |
| 合計 | 7,244 | 4,134 | 5,753 |



ごみ処理経費

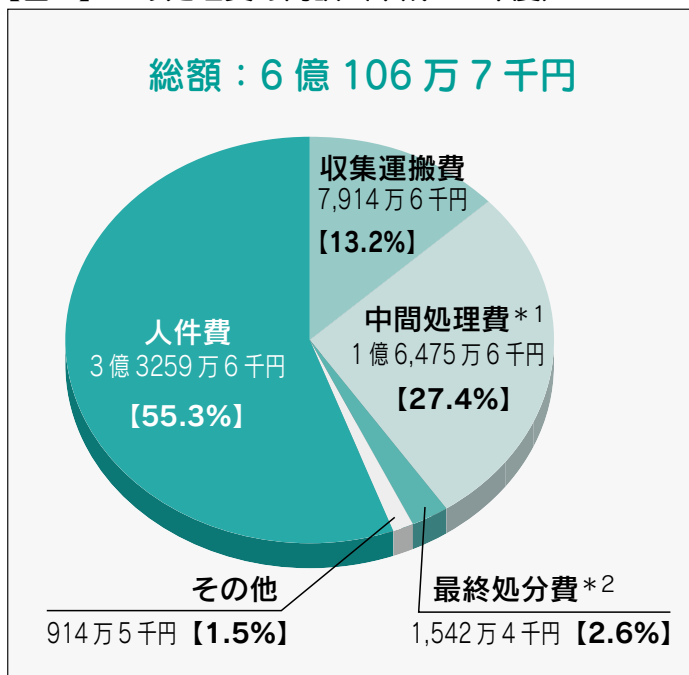
平成 21 年度 年間ごみ排出量 27,383 トン
人口 66,442 人 / 世帯数 28,175 世帯
(平成 22 年 3 月 31 日現在)

平成 21 年度のごみ処理経費は約 6 億 106 万 7 千円で、内訳は図 3 のとおりです。1 年間に 1 世帯当たりで約 2 万 1,400 円、1 人当たりでは約 9,100 円掛かったこととなります。また、1 トンのごみを処理するのに約 2 万 2,000 円掛かったこととなります。

現在の焼却施設は、稼働して約 29 年になります。老朽化した施設整備のほか、収集・埋め立てなどごみを適正に処理するために、維持管理費が必要となります。

ごみ処理経費の中で大きな割合を占めるのが中間処理費です。ごみの減量はもちろんのこと、正しく分別排出されることや、生ごみの水をよく切ること（左ページ参照）でも処理に要する経費を削減することができます。

【図 3】ごみ処理費の内訳（平成 21 年度）



*1【中間処理費】焼却・焼却灰処理など

*2【最終処分費】埋立・不燃ごみ処理委託など